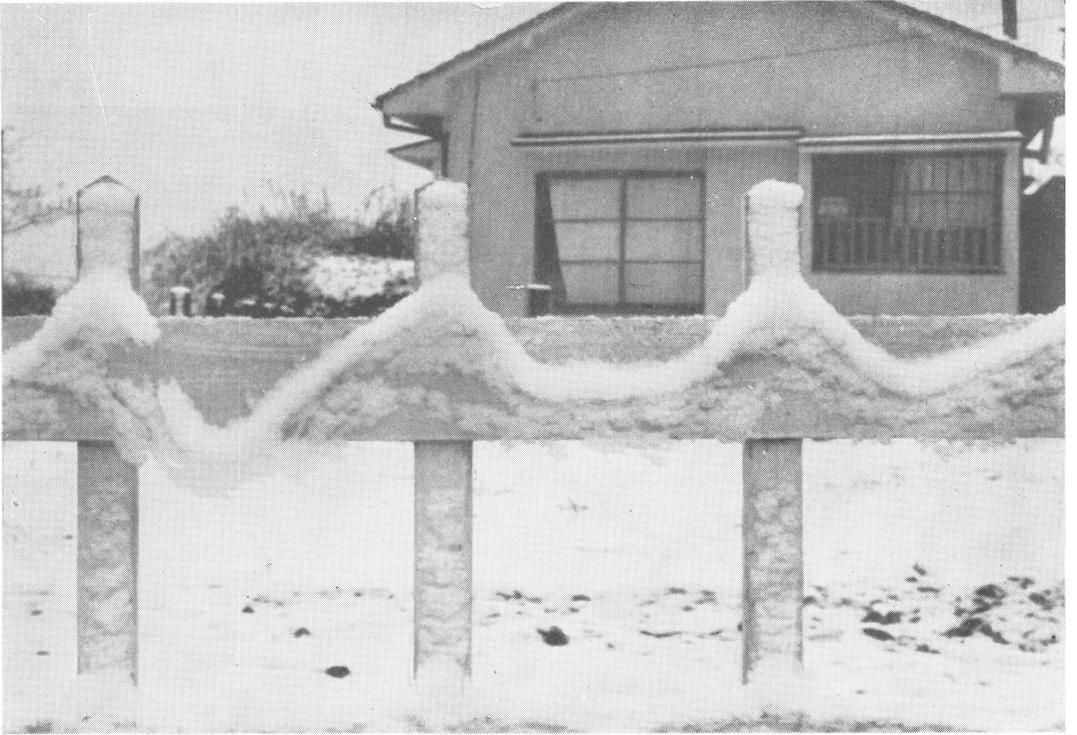
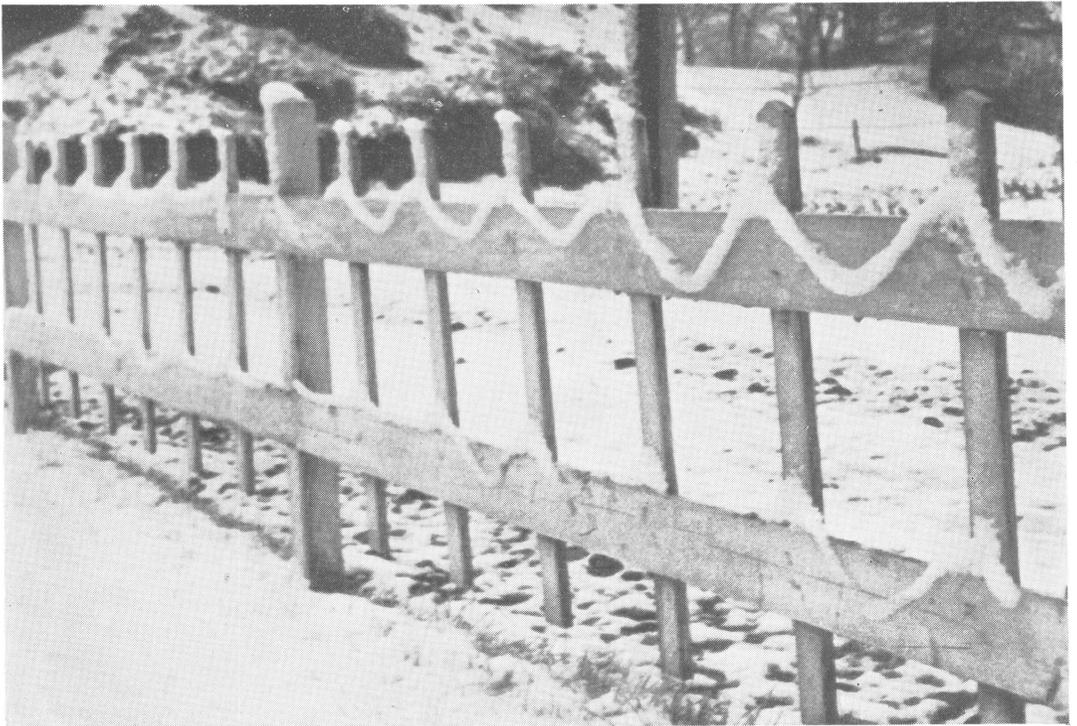


雪 紐 の 写 真



写 真 1



写 真 2

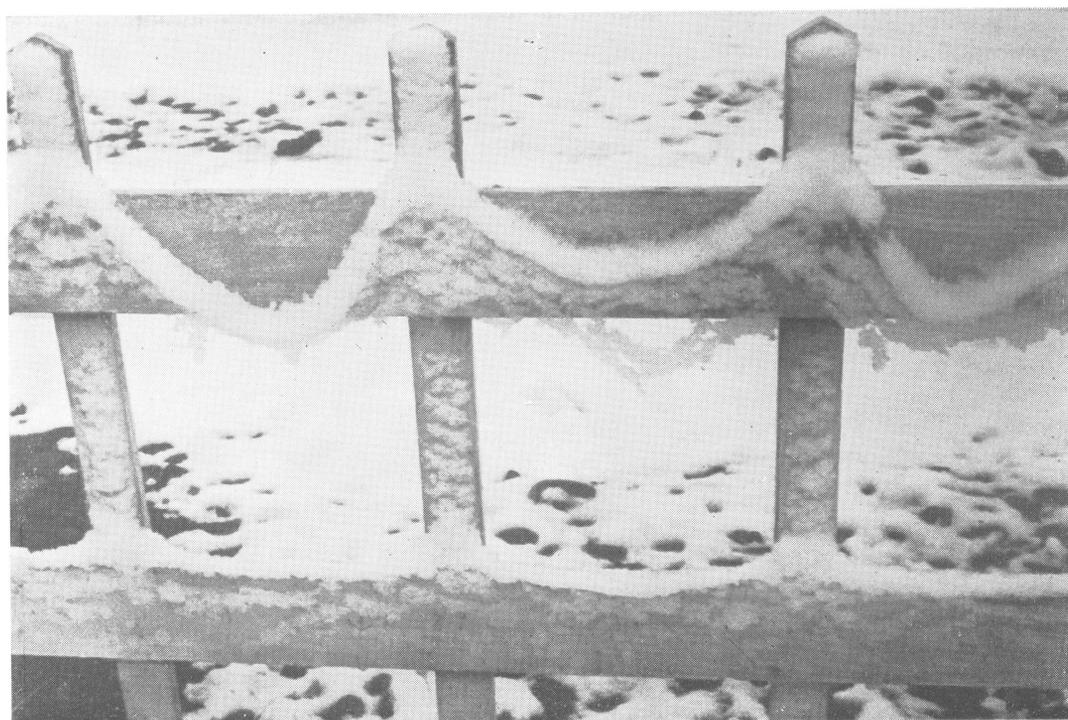


写真 3

春風抬頭，1957年3月4日には，当地方にも俄に暖気が訪れた。風穏かに晴れた日中の気温は $18^{\circ}\text{C}$ をこえ，この日初めて「ひばり」のさえずる声をきいた。しかし，自然は往々にして無情にふるまうものである。一夜こえた5日早暁からは，急に温度が下って，曇りが降り出した。曇りは7時頃になり並雪に変わったのであたりは雪化粧し，前日とはちがって，冬に逆戻りした。しかし屋外の地物には昨日までの「ぬくもり」が残っていたと見え，それに雪質も水分が多かったので，雪は融けながら積った。11時に積雪は5cmに達したが，この頃，当所露場の柵には，珍しく雪紐ができた。

この雪紐は，南北に走る柵の東面にだけつき，その他では見られなかった。雪紐の寿命は40分間位で，正午までには完全に融けて流れ落ちてしまった。参考までその時の気象状況を付記しますと下表の通りです。

(写真1，2，3，何れも11時25分～30分に撮影)

時間	温度	湿度	風向	風速
09	$0.5^{\circ}\text{C}$	100%	NNE	2.6m/s
12	$0.5^{\circ}\text{C}$	99%	NNE	1.1m/s

宇都宮測候所大田原気象通報所